

### 全作物共通

天気は数日の周期で変わり、平均気温は高く、降水量と日照時間はほぼ  
平年並の見込みです

- ①ハウスは高温障害に注意します。側窓、妻窓、天窗や換気扇等を活用して積極的な換気に努めるとともに、気温の上昇に応じた適切なかん水管理を行いましょう。
- ②遮光資材を積極的に利用し、生育適温の確保や作業環境の改善を図りましょう。ただし、栽培品目に応じて遮光率を選択し、曇天時の被覆は避け、過度な遮光にならないように注意しましょう。
- ③高温期は収穫後の鮮度や内部品質が低下しやすいため、朝夕の涼しい時間帯に収穫し、速やかに倉庫や予冷庫に搬入しましょう。
- ④アブラムシ類・ハダニ類・アザミウマ類・コナガ等の発生が増加するため、適切な防除対策を実施しましょう。アブラムシ・アザミウマは種類によって薬剤の効果が違うため、種を特定して薬剤を選択しましょう。
- ⑤余裕を持った作業計画を立て、気温の高い時間帯はハウス内作業を外すなどの工夫をしましょう。熱中症防止や疲労回復のため、定期的に休息を取り、水分だけでなく塩分補給も行いましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。





- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。
- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。  
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に、化学合成農薬の使用をできるだけ減らし、クリーンな野菜生産を実践しましょう。  
気温が25～30℃以上となる高温時の散布作業は、作物に対する薬害の危険性が增大すること、散布者の健康被害が懸念されることからなるべく避けましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。  
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。  
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
※掲載されている農薬情報は、令和3年7月7日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

## ■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■ 【 食品安全編 】

### — 野菜の衛生管理～調整・出荷施設～ —

- 機械や器具の配置は、作業者の動線をできるだけ単純化し、作業や清掃の妨げにならないように配置しましょう。
- 作業後は、施設内を整理整頓するとともに、清掃しましょう。野菜残渣等の廃棄物は、その周りに放置せず、食中毒を起こす微生物を運ぶおそれのある動物や虫を引き寄せない場所で保管・処理しましょう。
- 低温保管の施設は、結露した水滴が野菜に触れないよう気をつけ、設定温度が保たれているか確認しましょう。また、飲食物などの作業に関係のないものを入れないようにしましょう。

<b>作物名</b>	<b>あぶらな科野菜全般</b>	
<b>病虫害 生理障害名</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>コナガ成虫</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>幼虫による葉の被害</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>コナガ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コナガ幼虫</p> </div> </div>	
コナガ		
<b>発生状況</b>		
中～多発生		
<b>発生時期</b>		
5月下旬～		

**発生の状況・要因**

- ・幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。
- ・比布町では成虫の飛来数が平年より多くなっている。
- ・7月は幼虫の発生が増加しているため、今後も注意が必要である。

**対策**



- ・ほ場内外の雑草をこまめに除草する。
- ・防虫ネット（目合い1.0mm）を、侵入口となる隙間を作らないように設置する。
- ・ジアミド系（プレバソフフロアブル5等）への薬剤抵抗性個体群の出現があり、防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。

＜防除の一例＞

- プレオフロアブル（品目ごとに登録内容が異なるので注意）
 

こまつな・みずな：	1,000倍	収穫前日まで	2回以内
チンゲンサイ・ターサイ：	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内

**※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。**

<b>作物名</b>	<b>あぶらな科野菜など葉菜類全般</b>	
<b>病虫害 生理障害名</b>	ウスカワマイマイ	
ナメクジ類 カタツムリ類	 	
<b>発生状況</b>		
中発生		
<b>発生時期</b>		
4月中旬～	チャコウラナメクジ	

**発生の状況・要因**

- ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所を好み、地中で越冬する。
- 葉の食害の他、本体やフンの混入が問題となっている。
- 雨天時や夜間は活発に活動する。
- 7月上旬の雨を境に増加している。



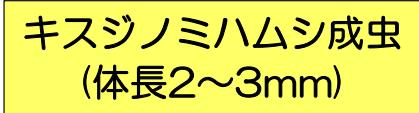

**対策**

- 常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。
- ハウス内外をこまめに除草する。
- スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。

＜防除の一例＞

●スラゴ 1～5g/m<sup>2</sup> (3.3～16.5g/坪) 発生時

**※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。**

<b>作物名</b>	<b>あぶらな科野菜全般</b>	
<b>病虫害 生理障害名</b>		
キスジノミハムシ		
<b>発生状況</b>	 <p style="background-color: #ffff00; padding: 2px;">キスジノミハムシ成虫 (体長2~3mm)</p>	こまつな葉部食害
少発生		ラデッシュ根部食害
<b>発生時期</b>		
5月下旬~		

**発生の状況・要因**

- 成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。
- 5月下旬から成虫の発生が見られる。
- 毎年7月頃に発生がピークを迎えるので注意する。

- 成虫期間：1~4ヵ月
- 卵期間：5~7日
- 幼虫期間：10~20日
- 蛹期間：3~15日

**対 策**

- 成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。
- 土壌施用粒剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。
- ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。

＜防除の一例＞

こまつな

- フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回

チンゲンサイ

- スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回

チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな

- モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで1回

**※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。**

作物名

ブロッコリー

病虫害  
 生理障害名

コナガ幼虫

ヨトウガ・コナガ  
 モンシロチョウ

発生状況

中発生

発生時期

6月下旬～



ヨトウガ中齢幼虫



ヨトウガ若齢幼虫と  
 葉の被害

発生の状況・要因

- ・コナガは個体数は多くは無いが増殖が早く、薬剤が効きづらいことがあるので注意が必要である。  
 幼虫が葉の表皮を残して食害する。
- ・ヨトウガ、モンシロチョウ、オオモンシロチョウも発生が続いている。
- ・いずれも幼虫は葉裏にいることが多い。

対策

- ・2週間から20日毎を目安に収穫前まで継続して防除を行う。
- ・薬剤抵抗性の発達を避けるため、ローテーション防除を心がける。
- ・コナガは薬剤抵抗性が発達している場合があるので、薬剤防除の数日後に見歩き等で効果を確認する。

<防除の一例>

●グレーシア乳剤	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	2回以内
●ハチハチ乳剤	コナガ・モンシロチョウ		
	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	2回以内
●コテツフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内
●アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
●ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害  
 生理障害名

写真：すいか(左)ときゅうり(下)に  
 発生したアブラムシと被害葉

アブラムシ類

発生状況

少発生

発生時期

6月中旬～



発生の状況・要因

- ・葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。
- ・ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。

対策

- ・きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

〈防除の一例〉

- モベントフロアブル  
 すいか・メロン・きゅうり 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
- トレボン乳剤  
 すいか 1,000倍 収穫3日前まで 3回以内  
 メロン 1,000倍 収穫3日前まで 4回以内  
 きゅうり 1,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

メロン・きゅうり

病虫害  
生理障害名

うどんこ病

発生状況

少発生

発生時期

7月上旬～



きゅうりの葉表に発生した白いかび

発生の状況・要因

- ・葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。
- ・例年、生育後半に発生が多くなるが、本年の乾燥条件により発生が早まった。
- ・過繁茂になると発生しやすい。

対策

- ・ほ場を乾燥させすぎない。
  - ・初発を確認したら薬剤散布を実施する。
  - ・被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。
- <防除の一例>
- フルピカフロアブル  
メロン・きゅうり：2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内
  - ストロビーフロアブル  
きゅうり： 3,000倍 収穫前日まで 3回以内  
メロン： 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内
- ※ストロビーフロアブルへの浸透性展着剤の加用は薬害を生じる恐れがあるので避ける。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	すいか・メロン・きゅうり			
病虫害 生理障害名				
ハダニ類				
発生状況				
少発生			きゅうり	すいか
発生時期			メロン	
6月上旬～				

### 発生の状況・要因

- 葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。
- 高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

### 対 策

- ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤年1回の使用に止めるローテーション防除を行う。

<防除の一例>

- マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回
- ダニサラバフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。



作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害  
 生理障害名

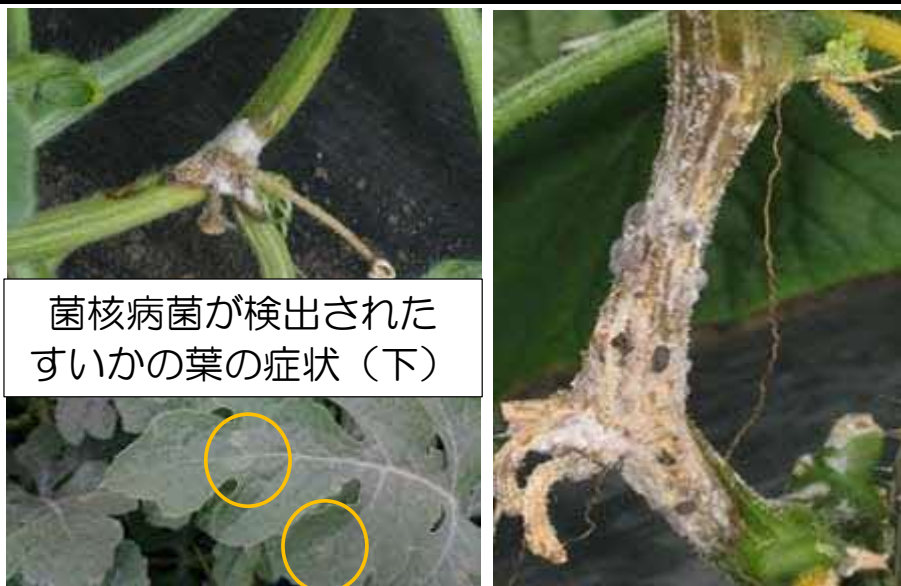
菌核病

発生状況

少発生

発生時期

5月下旬～



発生の状況・要因

- つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。
- 20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。
- すいかやメロンでは、着果期を過ぎ、茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。

対策

- 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
  - 着果期前より予防防除を実施する。
  - 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。
- <防除の一例>
- スミレックス水和剤
 

すいか	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	5回以内
メロン	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
きゅうり	1,000～2,000倍	収穫前日まで	6回以内

 ※スミレックスくん煙顆粒は、メロンに登録がなく使用できない。
  - カンタスドライフロアブル
 

すいか・メロン・きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	3回以内
--------------	--------------	--------	------

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

トマト類（大玉、ミニ）

病虫害  
 生理障害名

アザミウマ類

発生状況

少発生

発生時期

7月上旬～



産卵痕による白ぶくれ症状



ミニトマトの  
 金粉症状

発生の状況・要因

- ・開花中の花で発生が見られており、果実への加害が予想される。
- ・トマト、ミニトマトで果実への産卵で白ぶくれ症状を生じる。
- ・ミニトマトではミカンキイロアザミウマの食害で金粉症状を示す。

対策

- ・葉の食害や開花中の花を観察し、発生初期に薬剤散布する。

<防除の一例> トマト・ミニトマト共通

●ディアナSC			
アザミウマ類	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内
●ウララDF			
ミカンキイロアザミウマ	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
●コテツフロアブル			
ミカンキイロアザミウマ	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
※マルハナバチへの影響日数に注意			

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

ピーマン

病害虫  
生理障害名

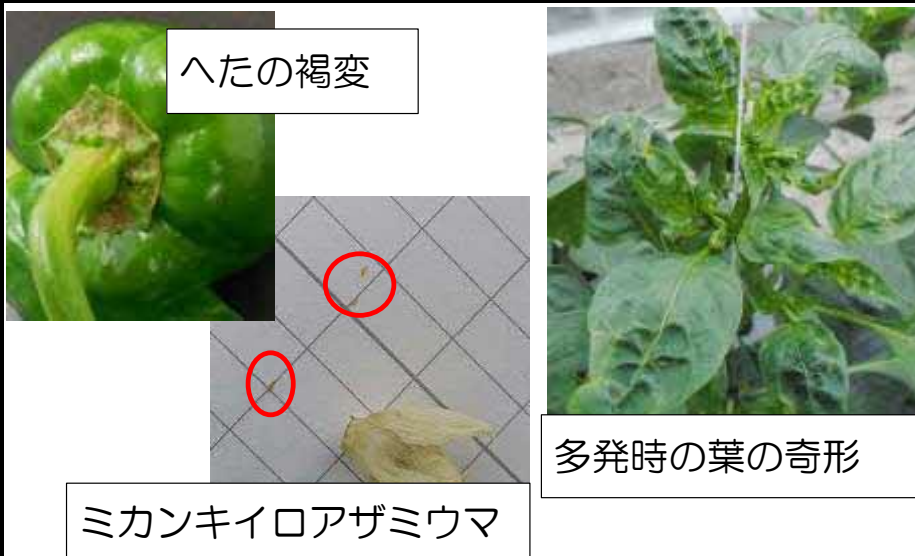
アザミウマ類

発生状況

中発生

発生時期

6月上旬～



発生の状況・要因

- ・ミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマが混在して発生しており、体色は種類や幼虫、成虫、雌雄により異なる。
- ・主に花に寄生しており、はたき落としにより1～2mmの黄色や黒の細長い微小な虫が素早く歩き回る様子が見られた。
- ・葉の奇形は見られない場合が多いが、へた等の褐変症状が見られ始めており、今後増加してくることが予想される。

対策

- ・発生確認は困難であるが、発生の増加している時期であるので他害虫との同時防除を実施するのが望ましい。

＜防除の一例＞タバコガ類やオオタバコガとの同時防除が可能  
 カブリダニ類導入時にも使用可能

- プレオフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内
- スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 2回以内

カブリダニ類導入時には使用不可

- コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内
- アフーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

ピーマン・ししとう・なんばん

病虫害  
 生理障害名

モモアカアブラムシ

アブラムシ類

発生状況

中発生

発生時期

5月下旬～



葉裏の寄生状況  
 令和3年5月なんばん

ピーマンの寄生状況  
 令和3年6月29日撮影

発生の状況・要因

- ・モモアカアブラムシの発生が継続しており、有翅虫も見られているのでほ場への再侵入に引き続き注意が必要である。
- ・モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。

対策

- ・多発すると防除が困難になるので、発生を見逃さないよう努める。
- ・生長点付近の未展開の葉や葉裏に寄生している場合は、薬剤がかかりづらいので、丁寧に行う。

<防除の一例>カブリダニ類の導入時にも使用可能

ピーマン

●ウララDF 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内

●トランスフォームフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内

ししとう・なんばん

●スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内

3品目共通

●チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

<b>作物名</b>	ピーマン、ししとう、なんばん	
<b>病虫害 生理障害名</b>		
	ヨトウガ・オオタバコガ	
<b>発生状況</b>		
	中発生	
<b>発生時期</b>	ヨトウガの食害 卵塊で産卵 葉や果実表面を食害	オオタバコガの幼虫 葉も食害するが果実に 食入する加害が多い
	6月下旬～	


### 発生の状況・要因

- ・6月下旬からヨトウガ幼虫の発生が見られている。  
生長点付近の葉の食害が多い。
- ・オオタバコガの発生も見られている。  
幼虫は一頭ずつ分散し、果実へ食入する性質が強い。
- ・いずれも成長すると食害量が増え、薬剤も効きづらくなる。
- ・生長点からやや下の葉の上に虫糞が見られる場合が多いので注意して観察する。

### 対 策

- ・発生初期に登録のある薬剤で防除を行う。
- ＜防除の一例＞  
 カブリダニ類導入時にも使用可能、アザミウマ類との同時防除可能
- プレオフロアブル ピーマン・ししとう・なんばん  
 タバコガ類 1,000倍 収穫前日まで 2回以内
  - カブリダニ類導入時には使用不可、アザミウマ類との同時防除可能
  - コテツフロアブル ピーマン・ししとう・なんばん  
 オオタバコガ 2,000倍 収穫前日まで 2回以内
  - アフーム乳剤 ピーマン  
 オオタバコガ 2,000倍 収穫前日まで 2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

<b>作物名</b>	<b>パセリ</b>		
<b>病虫害 生理障害名</b>	かびに覆われた葉		
うどんこ病			
<b>発生状況</b>			
発生に注意			
<b>発生時期</b>			
—	白色粉状のかび		

### 発生の状況・要因

- 葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。
- ハウス内温度28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。
- 毎年7月後半が初発となるので、発生に注意する。

### 対策

- ほ場を乾燥させすぎない。
- 発生前から予防的に薬剤散布を実施する。
- 発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。

#### ＜防除の一例＞

(発生前に7日～10日間隔で散布)

●クリーンカップ	1,000～2,000倍	収穫前日まで	—
●クムラス	500～1,000倍	—	—
(発生初期)			
●アフエットフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

たまねぎ

病虫害  
生理障害名

写真 7月13日発生状況  
下：縦並びの白色小斑点  
右：ネギハモグリバエ



ネギハモグリバエ

発生状況

多発生

発生時期

7月上旬～



発生の状況・要因

- ・7月上旬から2回目の発生により、食痕が急増している。
- ・発生初期は葉身部に縦並びの白色小斑点を生じる。  
(成虫の食痕・産卵痕など)。
- ・幼虫がふ化し、白色すじ状の食害が拡大する。

対策

- ・ほ場毎に発生状況が違うので、成虫の食痕を観察し、確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・葉身部全体に薬液が付着するよう、展着剤を加用する。

＜防除の一例＞

- リーフガード顆粒水和剤 1,500倍 収穫3日前まで 3回以内
- ディアナSC 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内
- ※ ネギアザミウマの発生が見られたら、ディアナSCを選択する。
- ※ いずれの薬剤も展着剤を加用する（まくぴか等）。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。